

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	31	学 校 名	清水東高等学校	校 長 名	井 島 秀 樹
------	----	-------	---------	-------	---------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	いじめの根絶	・いじめに対するトラブルの事前防止 ・いじめへの対処の確実な実施 ・ネットに関するトラブル：0件 ・「誰に対しても相手の気持ちを大切に接している」と答える生徒の割合：95%	・いじめアンケートを実施した。（2回目は2月に予定） ・スマートフォン講座を実施した。 ・「誰に対しても相手の気持ちを大切に接している」と答えた生徒の割合：96.4%	B	●いじめに関するトラブル2件 ○ネットに関するトラブル0件 ●授業や学校アンケートなどで、スマートフォンや1人1台端末の使用機会が増えている中、今のところ不適切な状況はないが、今後も引き続き生徒の様子を観察し使用方法について検討していく。
	授業中、部活動中、登下校中（特に自転車）の事故防止	・授業中の事故0件 ・登下校時の自転車事故件数2割減 ・職員対象のAED講習会の実施 ・校内活動中に熱中症重症者を出さない。 ・保健だよりの毎月発行	・今年度自転車事故件数12件（昨年度10件） ・設備や環境整備の不備による事故は0件であった。 ・今年度は、職員対象の『熱中症や頭部打撲の救急処置、救急要請の仕方』についての講習を実施した。 ・体育科と連携して、体育での熱中症防止を呼びかけ、校内活動中の熱中症重傷者の発生を防止した。 ・保健だよりを毎月発行した。	A	●自転車交通事故は昨年度よりも2件増加。 ●交通事故件数減を目指すだけでなく、交通ルールの順守とマナーに対して徹底させる。 ○新校舎を含め校内の環境整備について安全と使いやすさに配慮して整備することができた。 ○熱中症重症者が出ることがなかったが、継続的に出さない対応をしていく。
	防災対策の充実	・一斉メールによる防災連絡（緊急連絡）訓練の実施 ・防災訓練を年2回実施	・今年度より連絡用ツールをCラーニングに切り替えて実施	B	○Cラーニングの移行は円滑に行うことが出来た。 ●Cラーニングの活用方法を考えていく。
	校内の美化活動の推進	・「ごみの分別・削減・環境を守る行動をしている」と答える生徒の割合：85%	・「ごみを出さない、ごみをきちんと分別する、電気をこまめに消すなど、環境を守ることの大切さを理解した行動をしている」と答えた生徒の割合：91.4%	A	○環境に配慮した行動がとれている。 ●美化委員会による校内美化のための点検や呼びかけを継続して実施していく。 ●校内が完全に整備され、生徒の動線が確立されたら、校舎や体育館に可能な限り泥を入れない対策を講じなければいけない。
	感染症の予防	・「毎日の健康観察や手洗い・手指消毒・換気を行っている」と答える生徒の割合：85%	・「毎日の健康観察や手洗い・手指消毒・換気を行っている」と答えた生徒の割合：93.6% ・手指消毒のボトル・手洗い石鹸を定期的に補充し、手洗いと消毒の呼びかけを実施した。	A	○感染症対策を自ら行う意識を高めることができた。 ○換気を徹底させることができた。
イ	100周年記念事業の運営	・担当教員を配置し、100周年委員会との連絡を密に行い、各機関と学校の連携を強める。	・100周年実行委員会を中心に、同窓会、PTA、教職員、生徒などにより、盛大に記念式典を実施することができた。	A	○同窓生の団結がみられ、改めて100年の伝統を認識できた。 ●素晴らしい同窓生が多くいるとう人的資源を学校の発展に繋げていきたい。
ウ	制服の検討	・女子のスラックスを導入する。 ・生徒募集につながる新制服のイメージ作成	・令和6年度より女子のスラックスを導入 ・制服の在り方を検討中	A	○来年度より導入する女子スラックスが完成した。 ●今後の社会状況と本校の立ち位置を考えた、新しい制服の在り方を検討する。

様式第3号

エ	BYODによるICTを活用した授業の実践	・ICT機器の活用を目指す。 ・研修会を5回以上実施する。	・ICT機器が授業等で欠かせないツールとなっている。 ・校内研修5回に加え、1年総合での活用が教員研修も兼ねている。	A	○新校舎の整備が整い、活用が円滑にできた。 ○新転任職員の研修が早期に実施できた。
	HP、広報活動による本校にふさわしい優秀な生徒募集の実現	・探究活動、SSH、学校行事、部活動等の記事を週1回のペースで更新する。	・学校webページの記事の更新は月10回程度行われた。	A	○学校webページを充実することができた。
オ	主体的、対話的で深い学び、アクティブラーニングの推進	・全教員が講義形式に依らない授業展開の工夫を実践する。(各自学期に1回以上) ・「課題の設定時間が適切である」と答える教員の割合：80% ・年間2回以上、校内外の他の教員の授業を見学した教員の割合：70%	・授業においてアクティブラーニングに取り組んでいる87.8% ・「課題の設定時間が適切である」と答える教員の割合：79.6% ・年間2回以上、校内外の他の教員の授業を見学した教員の割合：79.6% ・アンケートの回答では「校内研修に積極的に取り組んだ」100%、「年間2回以上、他の教員の授業を見学した」79.6%であった。	A	○講義形式のみの授業はほぼ皆無となっている。 ●概ね目標の数値が達成できている。総量の検証が今後の課題と思われる。 ○授業参観週間を設定することで機会を確保できた。 ○新しい教育課程や授業評価に対して職員が積極的に自己研修に取り組んだ結果が反映されていると思われる。 ●研究授業や授業評価を通して課題を教科間で共有して、連携した取り組みをさらに推進したい。
	4校合同研修会の実施	・3教科以上の参加教員による研修内容を各教科・分掌で共有する。	・本年度は沼津東高校が会場校であり、国語・地歴公民・数学・理科の教員が参加した。	B	○他校における探究活動やアクティブラーニングの取り組みを知り、本校での活動に生かすことができた。 ●研修会の形式や内容について、他の職員研修とも組み合わせた継続しやすい方法を検討していきたい。
カ	SSH新制度の研究	・新制度指定を受けた先進校への視察 ・収集した情報を反映したプログラムの完成 ・先導的改革型及び認定枠指定校の教育課程を参考に、教育課程の研究を行う。	・特色の異なる複数の先進校を視察し、情報収集と共有が十分に行われた。 ・収集した情報を参考にしながら、次期SSHの取組として新課題研究プログラムの開発を進めた。 ・先導的改革型及び認定枠指定校の取組内容を比較検討し、本校の方向性を検討した。 ・認定枠指定校の教育課程を完成することができた。	A	○SSH先進校を複数視察し、得た情報を精査・共有することができた。 ○管理機関等と協議し、令和6年度認定枠としての申請を行うことができた。 ●令和6年度以降の本校SSH活動の最適化を今後検討する必要がある。 ○令和4年度入学生も含め教育課程の変更を行い、きめ細やかな指導が可能となった。
	SSH活動の充実	・「課題研究を中心としたSSH活動は有意義である」と答える生徒の割合：80% ・不思議実験講座受講後、「理科がより好きになった」中学生の回答：3.5点（4点中） ・国立遺伝学研究所訪問（実施できない場合は代替行事）は有意義だった」と答える生徒の割合：80%	・新教育課程及び令和6年度SSH再申請に対応した新しい課題研究プログラム「清高探究メソッド」を開発を進めている。 ・SSH生徒研究発表会（全国大会）、SSH東海フェスタ、静岡県学生科学賞、JSEC等の多くのコンテストに参加し、成果を挙げた。 ・「課題研究などのSSH活動は、自分にとって有意義である」と答えた生徒の割合：97.4% ・不思議実験講座後、「理科がより好きになった」中学生の回答：3.84点（参加者26人の平均） ・「国立遺伝学研究所訪問は有意義だった」と答えた生徒の割合：92.5%	A	○新しい課題研究プログラム「清高探究メソッド」の開発が予定通り進んでいる（次年度3年間のプログラムとして完成予定）。 ○目標の一つであったSSH東海フェスタで優秀賞を受賞し、全体会での発表を行うことができた。 ○課題研究、不思議実験講座において、成果目標を達成できた。 ○国立遺伝学研究所訪問を4年ぶりに実施することができ、成果目標も達成できた。
キ	欠席、遅刻、早退の減少	・欠席数が過年度平均の8割以下となることを目指す。 ・「一年を通して、睡眠時間を平均6時間以上確保できた」と答える生徒の割合：70%	・欠席数は増加したが、欠席と出席停止の総数は1割減少した。 ・全体では、66.8%の生徒が6時間以上の睡眠時間を確保している。	B	●コロナ禍を経て出席停止の取扱いが変わったため、来年度以降の経過に注視する必要がある。 ○学年が上がるにつれて、睡眠時間を確保した生活が根付いてくる。 ●1年生は60.6%であり、生活ペースの確立が課題である。

様式第3号

	メンタル問題による不登校、転退学の減少	・「学校生活に満足している」と答える生徒の割合：85%	・4月の初期指導でグループエンカウンターを実施した。 ・「学校生活に満足している」と答えた生徒の割合：91.2%	A	○グループエンカウンターの実施により、入学当初に人間関係を構築するための貴重な機会を与えることができた。 ●2・3年生のメンタル問題で不登校になる生徒のケアをしていく。
	部活動の充実、成績の向上	・「部活動が充実している」と答える生徒の割合：80% ・「部活動が充実している」と答える生徒の割合：80%	・全国大会出場5部活（陸上・囲碁・新聞・自然科学部化学班・英語）、東海大会出場4部活（囲碁・陸上・男子ソフトテニス・ヨット）その他県大会以上多数。 ・「部活動が充実している」と答えた生徒の割合：92.9%	A	○限られた制約の中で充実した活動ができた。 ○全国大会、東海大会等に出場する活躍をした部活動が多数あった。 ●文武両道をめざす本校として運動部の更なる活躍が期待される。
	探究活動の研究	・文理選択やキャリア教育へと繋がる指導計画と評価法の立案を目指し、3年次の指導計画を完成する。	・次年度は普通科3年生のSSHが改訂されるため、検討を重ね関係職員に周知した。	A	○新課程2年目となり、1・2年生のSSHは概ね順調であった。
	基礎学力の定着（校内学力試験の利用）	・令和4年度の評価結果について分析をする。 ・テスト返却1週間後の個票返却 ・「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合：85% ・「指導のレベルに満足している」と答える生徒の割合：90%	・過年度の分布と比較し、概ね同じであった。 「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合：89.2% 「指導のレベルに満足している」と答える生徒の割合：91.2% ・テスト返却後1週間後の個票返却については、全学年100%達成できた。	A	○授業へ取り組んでいると答える生徒が95%以上おり、わずかに上昇している。 ○毎学期の評定分布は例年と比較して同程度の分布になった。 ○授業の分かりやすさやレベルについて満足度が高かった。 ○進路部担当者が年間を通して個票返却を一括で担当したため、定期考査、校内模試いずれも処理が早かった。
	読解力をつける	・「年間5冊以上の読書を行う」と答える生徒の割合：70% ・「生徒の読解力が伸びた」と答える教員の割合：70%	・図書館の引っ越しのため、貸出開始が5月以降になったが、「年間5冊以上の読書を行う」と答えた生徒の割合：57.0%。1年生に限ると73.5%であった。 ・「生徒の読解力が伸びた」と答えた教員の割合：91.8% ・朝読書の時間に副担任が巡回指導した。 ・小論文指導は全教員で分担し、指導を徹底できた。	A	○朝読書の効果的な取組に関してはおおむね達成できた。 ●読書感想文及び、新書レポート執筆について、さらに指導を徹底したい。
	個に合った適切な進路指導、進路面談の充実	・進路に関する保護者会を実施。目標参加率：80% ・オープンキャンパスへの2年次までの参加：90% ・「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合：70% ・「新旧担任連絡会や校内進路検討会が進路指導に役立った」と答える教員の割合：80% ・「卒業生と語る会・予備校ガイダンスが進路指導に役立った」と答える生徒の割合：80% ・「進路講演会が生徒や保護者の進路理解に役立った」と答える教員の割合：80% ・「プロフェッショナルと語る会は有意義だった」と答える生徒の割合：80% ・「将来の進路について考えている」と答える生徒の割合：80% ・「東大訪問（実施できない場合は代替行事）は意義があった」と答える生徒の割合：75%	・「プロフェッショナルと語る会」「特別講演会」「少人数実験講座」等、進路を意識した事業を実施した。 ・進路に関する保護者会を実施。目標参加率：80%については、1年48%（PTA総会出席率）、2年85%、3年68%という結果であり、達成できなかった。 ・「進路講演会が生徒や保護者の進路理解に役立った」と答える教員の割合は、96%であった。 ・夏休みにオープンキャンパスに参加した生徒の割合は、92%であり、達成できた。 ・「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合については、3年生は75%、全体で56%であり、達成できなかった。 ・「新旧担任連絡会や校内進路検討会が進路指導に役立った」と答える教員の割合は、86%であり、達成できた。 ・「卒業生と語る会・予備校ガイダンスが進路指導に役立った」と答える生徒の割合は、卒業生と語る会95%、予備校ガイダンス100%であり、達成できた。 ・「学校で発行された『進路ノート』、『進学資料』、『合格体験記』、『最新大学情報』は進路を考えるうえで参考になった」と答える生徒の割合は86%であっ	A	●進路に関する1、3年保護者会が目標に届かなかった。1年生はPTA総会の後に実施したが、平日実施による参加者の低さが目立った。3年生は土曜日に実施したが、総体予選により参加できない保護者が多くおり、後日視聴できるように映像配信を希望する要望が強く、それに応えた。 ●「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合の目標値70%については、56%であり、生徒自身が今の自分の努力に満足していないことの表れであるため、意欲の高さが何えて良いと思われるが、もっと自信をもって生活できるように、声掛けを行う必要がある。 ○研究内容を詳しく学び、研究環境に触れたり実験などを体験したりすることによって、希望する進路への意識を高めることができた。 ●受験生として、「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合は、80%以上を求めたい。 ○大学での研究がどのようなものであるか知り、学生や大学院生の現在の生活や受験勉強の方法など具体的な話を多く伺うことで大変刺激を受け、大学進学への意欲を高めることができた。 ○講義では最新の研究の内容を学び、1つの研究にも多くの分野のプロフェッショナルが関わって成り立っていることを具体的に知ることができた。さらに、実際の研究施設を見ることで研究に対する関心を高めることができた。 ○「プロフェッショナルと語る会」にて多くのOBの方々のご協力を得て、円滑に実施することができ、成果目標も達成することができた。 ○昨年度開発した進路選択に関わる取組を、改良を加えつつ1年SSHにて実施することができた。

様式第3号

			た。 ・担任と生徒・保護者の面談機会1回以上（生徒との二者面談、保護者との三者面談、保護者クラス会）については、1年3回、2年5回、3年6回（昨年度は1年5回、2年5回、3年6回）で達成できた。 ・2年生は東大工学部・薬学部訪問とOBとの交流を実施、また新たに1年生は東大工学部研究室訪問を実施した。有意義であったと答えた生徒95% ・理化学研究所訪問、遺伝学研究所訪問を実施した。有意義であったと答えた生徒はそれぞれ91%、97% ・「プロフェッショナルと語る会はためになった」と答えた生徒の割合：98.5%		
	個の実力にあった文理選択（1年生）	・「学校で発行された『進路ノート』、『進学資料』、『合格体験記アプローチ』、『最新大学情報』は進路を考えるうえで参考になった」と答える生徒の割合：75% ・不本意な選択となる生徒を出さない指導を行う。	・4月入学直後、9月第2週、9月第4週に予備調査を行い、担任が生徒・保護者と面談を行った。 ・文理希望の調整は行わなかった。 ・担任と生徒・保護者の面談機会は4回行った。 ・仮登録や本登録での不本意選択はなかった。 ・「学校で発行された『進路ノート』、『進学資料』、『合格体験記』、『最新大学情報』は進路を考えるうえで参考になった」と答える1年生の割合は86%であった。 ・夏休みにオープンキャンパス（含オンライン）に参加した1年生の割合は、84%であった。	A	○文理選択の予備調査において志望大学や志望分野との整合性を生徒に確認した上で、仮登録を行った。そのため、本登録でほとんど変更が生じなかった。 ○学校で発行された進路関係の資料を読んだり、オープンキャンパスに参加したりして、進路について具体的に考え始めた生徒がいる。 ○文理選択のガイダンス（入学式、学年集会）や面談の成果もあり、スムーズな選択ができた。 ○おおむね目標が達成できた。今後も生徒の進路実現が叶うように、支援を充実させていけるように努力したい。
ケ	あいさつの励行	・「近所の人や知り合いにあいさつしている」と答える生徒の割合：90%	・「近所の人や知り合いにあいさつしている」と答えた生徒の割合：89.5% ・あいさつ運動を各学期1回以上実施した。 ・ほとんどの生徒が気持ちよくあいさつすることができていた。	A	○あいさつすることは定着してきた。 ●場に応じたあいさつができると更に良い。
	生徒会活動、ボランティア活動の充実	・「学校祭に満足した」と答える生徒の割合：80% ・各部活動で1回以上ボランティア活動を実施した割合：80%	・「学校祭に満足した」と答えた生徒の割合：92.4% ・ボランティア活動を実施した割合48%	B	○学校行事の企画運営については、感染症対策を引き続き考慮しながら、新しいスタイルを確率していく。 ●生徒会を中心にボランティア活動への参加呼びかけをしていく。
	研究旅行の充実	・「充実した研究旅行になった」と答える生徒の割合：80% ・海外研修旅行のプラン作成	・研究旅行後の調査の結果、「充実した研究旅行になった」と答える生徒の割合は普通科・理数科を合わせて99.3%であった。 ・普通科は日本文化の理解、理数科は科学技術施設の見学ができるような研修地を選定できた。 ・科学技術施設見学を取り入れ、班別研修では生徒が主体的に計画し行動することができた。有意義であったと答えた生徒97%	A	○班別研修の計画の際には、LHRの時間に旅行者に來校してもらい、生徒が直接相談できるような時間を設定した。 ○平和学習に関しては、事前の学年集会において高校生平和大使の生徒の発表を行ったこともあり、普通科・理数科ともに現地でも充実した研修ができたようであった。 ●国際交流については日程が短かったこともあり計画に入れられなかったが、観光地やホテルでは外国人観光客が非常に多く、ちょっとした交流ができた生徒もいたようであった。 ●今年度についてはコロナ禍の不安もあり、昨年度の秋には国内旅行への変更で検討を始めた。来年度については海外旅行で計画を進めている。 ○科学技術施設の訪問、自然体験、平和学習、文化体験など、充実した研修を実施することができた。
コ	休暇取得促進日の設定	・休暇取得促進日に休暇を取得できる職員の割合が90%以上	・夏季休業中の休暇取得促進については、91.8%の職員が休暇を取得できた。	A	○学校行事を調整することと、個々に声掛けを行うことで、休暇を取りやすくなっている。

様式第 3 号

	業務の見直し、 スクラップの推進	・印刷紙の使用量 1 割減を目指す。 ・19:30 以降残留する職員が減少するように業務の割り振りを改善する。	・学校発出文書については、Ｃ－ラーニングによりペーパーレス化が進んだ。 ・ICT 活用について困難を有する状況がまだある。	A	○保護者連絡について、情報が保存できる状態となることは有効である。 ●ICT 機器の活用には、研修と実際に使うことが必要である。
サ	事務室運営の効率化	・ 1 件以上の業務改善実施	・学校徴収金のインターネットバンキング導入及び証明書発行事務の簡素化、生徒保護者向け通知文をＣラーニングを活用。	B	○担当者発案による業務改善を進めることができた。
	法令順守の徹底	・物品（修繕）要求書提出の徹底とすみやかな会計処理を行う。 ・学年費等の決算報告書類等は、わかりやすい文書の作成に努め、残金等は迅速な返金処理等を行う。 ・個人情報の適正な保管により紛失及び漏洩事故ゼロ	・物品要求書提出は、ほぼ徹底できた。 ・県費及び学校徴収金会計についても、適正に処理できている。 ・県費及び学校徴収金会計についても、適正に処理できている。 ・学校徴収金会計の返金処理（転出・退学者）について、すみやかに対応できた。これから決算処理があるが、迅速な処理等を行う。 ・個人情報の紛失及び漏洩事故は、起きていない。	B	○物品要求書提出の徹底により、事業仕分けによる会計処理を推進できたと考ええる。 ○学校徴収金会計の適正処理が行われ、すみやかな返金処理ができています。 ●物品等の値上げや海外修学旅行の実施等により、来年度の学年費等会計（受益者負担会計）の徴収額増加が見込まれる。費用対効果等により執行見直しするなどし、これ以上の徴収額の抑制を検討する必要がある。 ○適正に管理できていることから、これを維持していく。
	安全安心な教育環境の維持	・月 2 回以上の施設点検と法令点検指摘箇所のすみやかな改修を行う。 ・解体工事にかかる騒音等の対応について、的確な校内調整を図る。	・定期点検や法令点検での指摘箇所は、安全性を考慮した優先順位により改修を進めた。 ・解体工事については、事故等もなく順調に推移している。	B	○解体工事及びその跡地整備は、令和 6 年 10 月には終了予定である。 ●跡地は、グラウンドとなるが防球ネット等付帯施設は今回の工事に含まれていないので、今後も県教委に整備をお願いする必要がある。